

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門造形高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ等を活用し、系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。全HR教室のプロジェクト、特別教室の大型プロジェクトを授業実践で活用することで不断の授業改善に努力し、授業の「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を向上させる。また、「学習動画」やオンライン授業、教育アプリ等を活用し、予習・復習といった家庭学習を習慣化させ、すべての教科で学力向上を図る。

イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、表現力や思考力を鍛え、作品だけではなく言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。

※学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（R2 84%、R3 90%、R4 88%）を90%にする。

※「発信力」の育成について、プロジェクトや1人1台端末等のICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業（教科・科目）で設定する。学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答（R2 83%、R3 90%、R4 91%）90%以上を維持する。

2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成

(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。

ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。

イ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、住之江区に限らず大阪の地場産業・地域文化を学び、「ものづくりの街」「文化芸術の街」大阪を全国に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にす心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。また、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。

ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。

エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。

※進路指導の指標として、学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答（R2 91%、R3 94%、R4 91%）「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答（R2 91%、R3 92%、R4 92%）、いずれも90%以上を維持していく。

※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和7年度においても現在の水準（美術の大阪府代表）を維持していく。学校教育自己診断において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答（R2 89%、R3 91%、R4 91%）90%以上を維持する。

※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。

ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門造形高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。

イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。

ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。

エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。

※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくっていく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど専門造形高校ならではの活動について推進する。学校教育自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答（R2 99%、R3 99%、R4 99%）を、95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」（R4 新設 61%）の肯定的回答を65%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
-----------------------------	--------------

府立港南造形高等学校

<p>〈生徒〉今年度は、その場でWEB回答してもらったため、回答数は100%となり、正確な数値が得られた。</p> <p>5月からコロナが5類に移行し、以前の高校生活を取り戻すことができ、ストレスなく学校生活が送れるようになったことで肯定的回答が大幅にアップした。特に上がった項目を挙げ、その要因を考えたい。「9 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」については、今年度の人権講演で呼び出した落語家福点の内容が大変良かったからだと考えられる。人権教育推進委員会が中心となって講演内容を考えるのだが、「命」をテーマとしている点が生徒に響き10%アップとなった。「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」では、年2回の避難訓練は例年実施しているので変わらないが、要因があるとすれば連続で校内盗難が発生し、集会、校内放送で注意を受ける機会が頻発していた状況があったため、10%アップとなったようである。「19 地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」については、住之江区や関係団体との交流や連携活動が頻繁に行われ、多くの生徒がかかわった結果であると高く評価したい。最後に「20 海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流をしたりする機会がある。」は、25%のアップとなった。5月に台湾の姉妹校提携校が本校に訪問し、交流を行ったこと、海外研修が再開され1月に生徒26名がイタリアに行ったこと、さらに英語科が海外の学生とオンライン交流する機会をつくっていることなどたくさんのプラス要因が重なったことに起因していると思われる。</p> <p>全体的にはコロナ禍で奪われていた教育活動や行事が戻ってくることによって、生徒の高校生活を有意義にし意欲的にした結果としてこのような数字になったと分析される。</p> <p>〈保護者〉昨年度の回答数は、75件。今年度はさらに下回り55件。保護者の1/10しか回答が得られなかった。次年度は、情報提供の方法を考えるとともに、何らかの対策を講じ、多くの回答が得られるよう工夫したい。</p> <p>〈教職員〉 回答率(29/45)は昨年度より高くなったものの、1回答で3.5%以上の差が生じる%表示では、経年変化を正確に分析することが困難であった。昨年度と比較し、下がったのが8項目、上がったのが4項目という結果になった。</p>	<p>〈第1回〉6/22開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で遅刻、欠席が増えている報告を受けて心配である。コロナ前後で大学も全然違う。オンデマンドの授業の影響か。 ・地域や外部との連携、国際交流など、生徒にとっていい意味で刺激になり良い方向に動いていると思う。 ・『ようこそ先輩』を全学年に実施、良い試みだと思う。身近な年齢の先輩の話の方が説得力あると思う。 ・小中学校教員対象実技研修すごく期待している。小さな子どもほど後々、いい影響をもたらす。教える側、先生の存在が大事。小学校にICT支援委員として仕事しているが同じような作品が並んでいることが多い。子どもは枠の中に入りがち。発想や柔軟性を伸ばしていただきたい。 ・第2学年修学旅行について、青森の美術館など充実していていい場所。見どころが多い。 ・国際交流で若い人たちが交流することはいいこと。文化の違いがいい刺激になる。 ・生徒指導で身だしなみや遅刻について「大人としての行動」を意識させることがすごく良いことだ。高校生から身につけていくことが自覚にもつながる。 ・第2学年、文化祭「ねぶた制作」は、修学旅行に関連付けた取り組みとして効果的。 ・奨学金説明会は、保護者にとっても心強く、安心できる。継続していただきたい。 <p>〈第2回〉12/4開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前とほぼ同じペースで動いている報告を受けてうれしかった。コロナ時は生活リズムがおかしくなり、ものの考え方で変わってしまった。 ・盗難に関しては啓発活動に取り組んでほしい。 ・昨日も大きな地震があったが、避難訓練で地域の保育園も参加してもらっている取組みはうれしい。 ・人権教育の取り組みの工夫、生徒の心に響いたと聞いて一番うれしかった。生徒は今回のことをきっかけに深いところまで考えてくれるようになれば。 ・地域の連携が充実している。『ようこそ先輩』の企画がすごくいい。 ・人権教育では「障がい者問題」「金融リテラシー」など生徒が入っていきやすいように工夫されている。 ・修学旅行の東北、深い歴史と現代美術。すごくセンスのいい選定。生徒のアンケート結果は満足度の数値が高くすごいと思った。「ねぶた」という伝統文化に触れる機会で、将来自分も携わりたいという生徒がでてくるのでは。 ・小中学校教員対象実技研修、特に小学校の先生への指導をすごく期待している。美術教育を小さな子どもたちにしっかり教えられるように。 ・PTA活動は交流も増え、行事ごとに絆が深まりいい感じに活動ができている。 ・コミュニケーション能力、プレゼン能力が求められる社会、高校時代から身につけてほしい。 ・イタリア研修では現物に触れてもらいたい。 <p>〈第3回〉3/4開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動が熱心で、いろいろ結果を出せている。「動物研究同好会」が第1回ネイチャー甲子園の映像は衝撃的すぎる。15期生の方がテレビ放映で紹介されているのを拝見した。高校でいろいろな経験をさせていただいて充実している。自分で自分の先を見極められることに繋がればよいのではないかな。 ・いろいろな活動で生徒たちが自分たちのことを十分発信できている。いい経験になっているのではないかな。「命の大切さ」を人権学習の中で取り上げていただけてありがたい。先生方が大変忙しそうに感じ、仕事の時間も増加されているところが心配。 ・ネット上の誹謗中傷がすごく気になる。ある程度、意識的に軽くやってしまうことがあるが、根強くモラルを丁寧に教えていくことをやらないとひどくなる。 ・男子学生が少なさの原因は？ ・美術系は大学でも女子学生が多い。ここ2年間、本校は倍率が高く、結果男子学生が17%前後。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
ユース力、「企画力・発信力」の育成	<p>(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成</p> <p>ア 生徒全員が1人1台端末を活用し、すべての教科で、学力の向上</p> <p>イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実</p>	<p>(1) ア すべての教科で1人1台端末などのICT機器を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、家庭学習を習慣化させるために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。</p> <p>イ 造形活動に必要な幅広い知識・実技力を身に付けるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答を90%にする。[88%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生で実施する外部テストの結果について、1回目比2回目の到達ゾーンを下げないようにする。[国数英計] <p>イ・学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[92%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容や目的に 	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答は91%となり、積極的にICTを活用しようとしている様子がうかがえた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生で実施する外部テストでは1回目比2回目の到達ゾーンが下がっている。(△) [国数英計C1→C2] <p>イ・学教診における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答94%、「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答98%となり、効果のある場面でICTを積極的に活用しており、ICTの活用効果は授業見学で検証できている。(○)</p>

府立港南造形高等学校

	<p>ウ 言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる</p> <p>エ 造形文化への理解・教員の自己研鑽</p>	<p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行い、表現力や思考力を鍛える。言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。</p> <p>エ 美術館等と連携し、現代の作品、世界の作品、伝統工芸作品に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。 また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。</p>	<p>よってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答90%以上を維持する。[93%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>エ・国内外の作品に触れる機会の設定回数を昨年並みに維持する。[9回]</p> <p>・小中学校対象教員実技研修、PTA対象文化講座の実施（指導技術の向上）</p>	<p>ウ・学教診における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答98%となり、生徒たちは授業の中で発表の場を与えられ、意欲的に発表している場面をよく見かける。(○)</p> <p>エ・1年生は「大塚国際美術館」で芸術鑑賞(4/28)、2年生「美学美術史演習」選択生は授業で美術館鑑賞(6回)、すみのえアートビートへの参加などを行った。全体での鑑賞回数は減少したが、ハルカス美術館や中之島美術館などの企画展の紹介などにより、生徒の鑑賞機会は増えていると見られることから昨年並みの鑑賞機会を提供することができたと判断した。[8回](○)</p> <p>・小中学校対象教員実技研修(8/24 42名参加)中学校教員対象実技研修(1/13 14名参加)、PTA文化講座(12/9)後援会文化講座(7/29)の実施(指導技術の向上)(○)</p>
<p>2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成</p>	<p>(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成</p> <p>ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取り組み、高一大・専連携講座等の一層の充実</p> <p>イ 地域連携の促進と大阪の地場産業・地域文化の発信</p>	<p>(1) ア・美術造形との生涯に渡るかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取り組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 ・キャリア教育に関する講演会等を実施する。</p> <p>イ・大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。大阪の地場産業・地域文化の企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。 ・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えると同時に、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。 ・地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>・「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、75%以上にする。[73%]</p> <p>・卒業生による講演会『ようこそ先輩』を実施する。 ・大学等による出前授業を実施する。 ・画材業者による材料に関する講座を実施する。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答を85%以上にする。[84%]</p> <p>・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答を80%以上にする。[78%]</p>	<p>(1) ア・キャリア教育の一環として実施している「ようこそ先輩」では、4名の先輩方お話を聞き、「とてもよかった」との回答が81.2%、「今後の活動に役立つ部分はありましたか」の回答には78.1%の肯定的回答を得た。学教診における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答96%でかなり上向きであった。(○)</p> <p>・地域交流(アスール幼稚園との読み聞かせ交流8/24 全国地域安全運動住之江区民大会出席 10/6 イベントシートのデザイン協力一感謝状授与・すみのえアートビート参加 11/5 住之江区子育て応援イベント参加 11/25 加賀屋緑地会所イベント参加 3/9)(○)</p> <p>・大学等の出前授業を9回実施した。その他、オープンスクールや卒業制作展鑑賞ツアーなど大学・専門学校と連携するような機会を多くもっている。(○)</p> <p>・今年度は画材業者による材料に関する講座は実施する機会を逸している。(△)</p> <p>イ・あらゆる機会をつくり、生徒の発表の場を提供し、地域や大阪府、全国に向けて発信できた。(大阪芸大アートコンペティション/審査委員長賞 大阪成蹊大学アートコンペティション/金賞1銀賞2 DAS学生デザイン賞/空間デザイン部門賞 ネイチャー甲子園決勝出場 2/11 優秀賞受賞 版画甲子園本戦出場中小企業長官賞受賞(第2席))学教診における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答(R5:96%)(○)</p> <p>また、ボランティア活動にも積極的に参加した。(住之江警察と連携し、特殊詐欺被害防止キャンペーンにデザイン協力。生徒会活動として、ユニセフ募金、緑の羽根募金、献血キャンペーン参加、大和川クリーンアップ活動ミユキ陶板画除幕式参加 3/3)</p> <p>・全盲の落語家を招き人権研修を行った。「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答(R5:94%)(◎)</p> <p>・学教診における「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」では、肯定的回答(R5:88%)。年2回の避難訓練は例年実施している。要因があるとすれば連続で校内盗難が発生し、集会、校内放送貴重品の管理を注意されていた状況があったため、10%アップとなったようである。(◎)</p>

府立港南造形高等学校

	<p>ウ 高校生活をより充実させるための目標設定と支援。教育相談体制の充実</p> <p>エ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持</p>	<p>ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。</p> <p>エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。 ・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。 ・部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>ウ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[92%] ・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答 80%以上を維持する。[80%]</p> <p>エ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[91%] ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>ウ・国公立大学(美術系)10名合格(昨年度10名)。就職希望者7名全員内定。学教診における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 96%で維持した。(○) ・SCの来校日を月2回、今年からSSWも来校していただけることになり、相談体制が充実した。学教診における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。」の肯定的回答を目標値 80%以上に引き上げた。(R5:84%)(○)</p> <p>エ・「高校展」「芸文祭」(連続で「芸文大賞」を受賞)はもとより、大学主催のアートコンペ等に出品し、優秀な成績をおさめた。学教診における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答は、93%で、現状を維持した。(○)高校展出品数 332 点、うち入賞数 109 点。芸文展出品数 199 点、うち入賞数 128 入賞数 45 点。 ・熱心な教材研究と熱意ある部活動指導で「定時退庁日」、「ノークラブディ」が徹底できず、数名の先生方に産業医面談を実施した。(△)</p>
<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす</p> <p>イ 日本一の専門造形高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実</p> <p>ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進</p> <p>エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校(全国副会長)」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取り組みのより一層の発展を図る。</p> <p>イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。</p> <p>ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進。</p> <p>エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」肯定的回答 99%以上を維持する。[99%] ・令和8年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会大阪大会に向け、準備委員会を3回以上開催する。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答 85%以上を維持する。[86%]</p> <p>ウ・小中学校教員対象実技研修を実施する。 ・全国美術系大学短大合同説明会を実施する。 ・高校展分散開催の会場として本校体育館を活用する。</p> <p>エ・学校教育自己診断における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答 65%以上にする。[61%] ・海外研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>・あらゆる機会をつくり、生徒の発表の場を提供し、全国発信できた。(全国高総文祭鹿児島大会美術工芸部門大阪代表 14 点中 9 点、近畿高総文祭三重大会美術工芸部門大阪代表 7 点中 5 点、学教診における「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答(R5:99%)(○) ・令和8年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会大阪大会会場決定。テーマの決定等、検討の段階である。(△)</p> <p>イ・HPの更新、Xのつぶやき等情報発信している。学教診における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答(R5:90%)(○)</p> <p>ウ・小中学校対象教員実技研修(8/24 42名参加)中学校教員対象実技研修(1/13 14名参加)(○) ・「全国美術系大学・短大合同説明会」6/10実施 大阪の高校に周知し、外部からも来校。(○) 本校生保護者参加 323名 他校生保護者参加 47名 高校展を本校体育館で実施(7/30-8/5)鑑賞者数 1598名。(○) エ・第1学年大塚国際美術館芸術鑑賞(4/28)実施。(○) ・学教診における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答 86%と 25%の上昇。(◎) ・イタリア海外研修旅行の実施。(1/4-11)26名参加。(○)</p>